

令和7年度 鹿屋市市政モニター
第2回アンケート
(DX推進について)
結果報告書

令和7年7月
鹿屋市市長公室・総務部
政策推進課・デジタル推進課

目 次

1. 調査の概要	1
(1) 目的	1
(2) 抽出方法	1
(3) 対象者数	1
(4) 調査期間	1
(5) 回答者数	1
2. 調査結果	2
Q2 あなたの年齢を選択してください。	2
Q3 あなたの性別を教えてください。	2
Q4 情報通信機器の所有状況について教えてください。(複数回答可)	3
Q5 日常生活でインターネットを利用して情報を得ていますか。	3
Q6 主に利用しているインターネット接続の料金形態は何ですか。	4
Q7 スマートフォンやパソコン等で普段利用しているサービスは何ですか。(複数回答可)	5
Q8 キャッシュレス決済を利用していますか。	6
Q9 利用しているキャッシュレス決済は何ですか。(複数回答可)	6
Q10 生成AIを利用していますか。	7
Q11 鹿屋市からの情報を得る主な手段は何ですか。(2つまで選択)	8
Q12 以下の行政オンラインサービスで利用したことがあるものは何ですか。(複数回答可)	9
Q13 市への手続き等で不便だと思うことは何ですか。(複数回答可)	10
Q14 今後、どのような行政サービスの拡充や新規導入を期待しますか。(3つまで選択)	10
Q15 マイナンバーカードを持っていますか。	11
Q16 マイナンバーカードを使って利用したことがあるサービスは何ですか。(複数回答可)	12
Q17 マイナンバーカードの利活用における課題は何だと思えますか。(複数回答可)	13
Q18 鹿屋市の行政手続等のデジタル化・オンライン化についてどう思いますか。	13
Q19 社会のデジタル化が進む中で、不安に感じることがありますか。(複数回答可)	14
Q20 その他、ご意見・ご要望等がございましたら入力ください。	15

1. 調査の概要

(1) 目的

鹿屋市 DX 推進計画の改定に当たり、ICT 化（デジタル化）等による市民サービスの向上、業務効率化を進めるため、市民のニーズや意識を把握するとともに、現計画 推進による意識の変化を把握の上、次期計画に反映させるもの

(2) 抽出方法

市政モニター全員

(3) 対象者数

200 人

(4) 調査期間

令和 7 年 7 月 3 日～20 日 18 日間

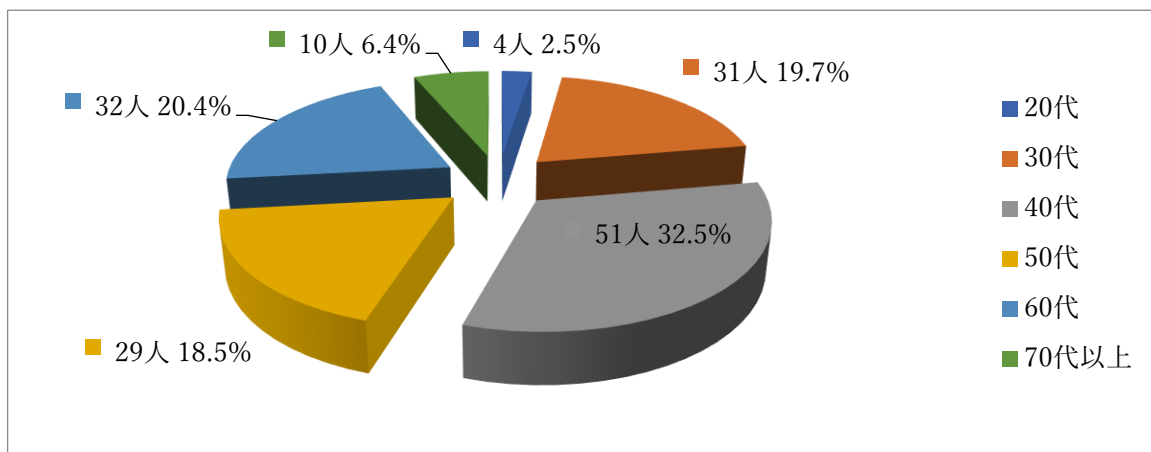
(5) 回答者数

157 人（回答率 78.5%）

2. 調査結果

Q2 あなたの年齢を選択してください。

「年代」を尋ねる設問では、「40代」が51人(32.5%)で最も多く、次に「60代」が32人(20.4%)、その次に「30代」が31人(19.7%)であった（有効回答者数 n=157人）。

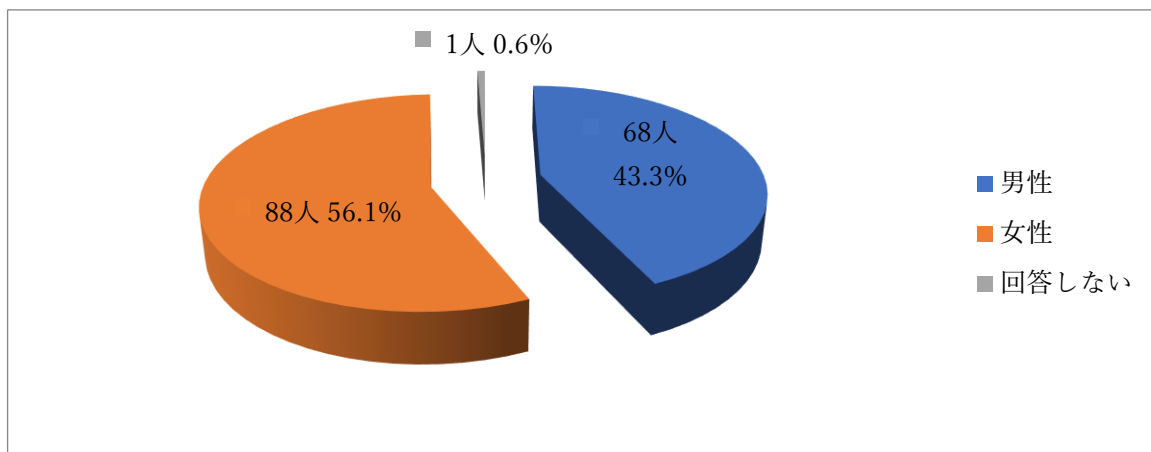


回答者数内訳(人)

区分	回答者数
20代	4
30代	31
40代	51
50代	29
60代	32
70代以上	10
計	157

Q3 あなたの性別を教えてください。

「性別」を尋ねる設問では、「女性」が88人(56.1%)で最も多く、次に「男性」が68人(43.3%)、その次に「回答しない」が1人(0.6%)であった（有効回答者数 n=157人）。

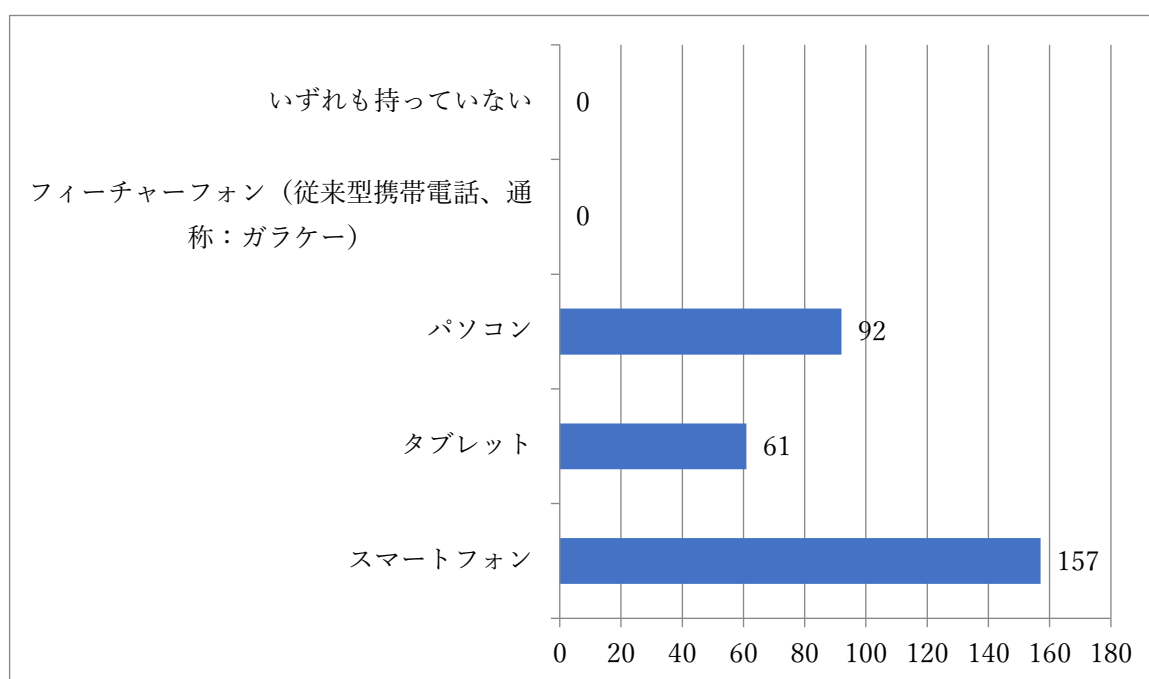


回答者数内訳(人)

区分	回答者数
男性	68
女性	88
回答しない	1
計	157

Q4 情報通信機器の所有状況について教えてください。（複数回答可）

「情報通信機器所有状況」を尋ねる設問では、「スマートフォン」を選択した人が157人(100.0%)で最も多く、次に「パソコン」を選択した人が92人(58.6%)、その次に「タブレット」を選択した人が61人(38.9%)であり、オンラインサービスの提供において、スマートフォンへの最適化を図るとともに、多様なデバイス環境も考慮したサービス設計の検討も必要であると考えられる（全回答者数 n=157人）。



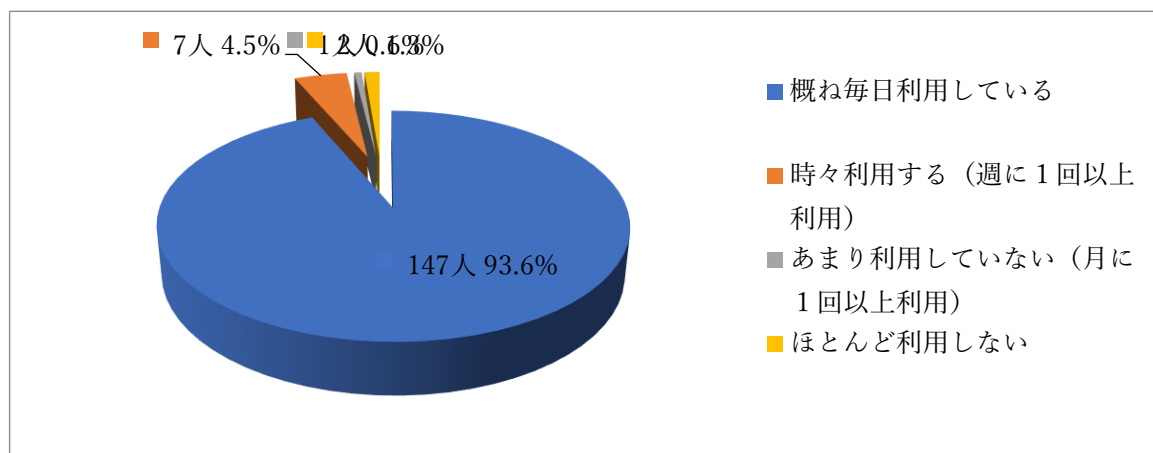
回答者数内訳(人)

区分	回答者数
スマートフォン	157
タブレット	61
パソコン	92
フィーチャーフォン（従来型携帯電話、通称：ガラケー）	
いずれも持っていない	
計	310

Q5 日常生活でインターネットを利用して情報を得ていますか。

「インターネット利用状況」を尋ねる設問では、「概ね毎日利用している」が147人(93.6%)で最も多く、次に「時々利用する（週に1回以上利用）」が7人(4.5%)、その次に「ほとんど利用しない」が2人(1.3%)であり、市民にとってインターネットが情報収集の主要な手段となっていることから、行政情報の発信においても、ウェブサイトやSNS等を積極的に活用し、情報アクセシビリティの向上に努める必要があると考えられる（有効回答者数

n=157人)。

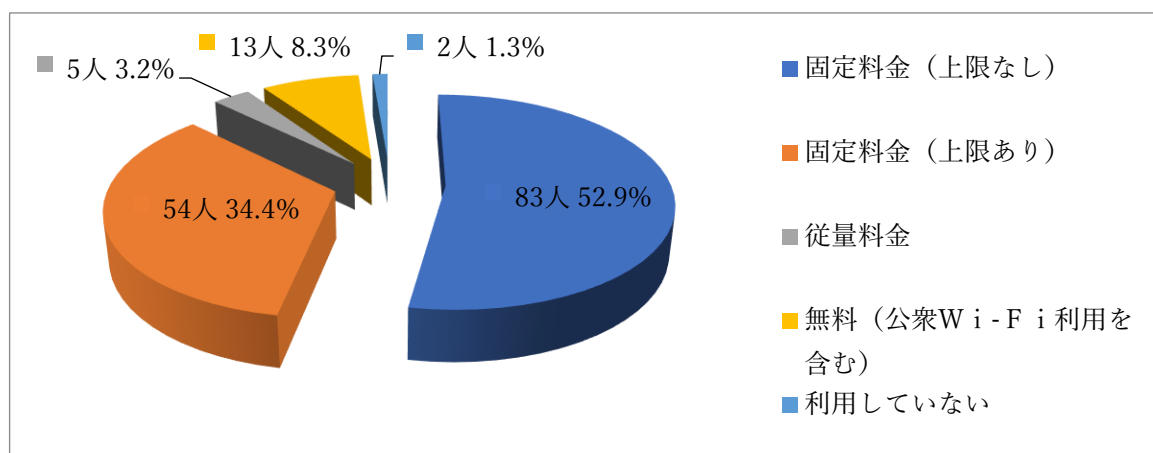


回答者数内訳(人)

区分	回答者数
概ね毎日利用している	147
時々利用する (週に1回以上利用)	7
あまり利用していない (月に1回以上利用)	1
ほとんど利用しない	2
計	157

Q6 主に利用しているインターネット接続の料金形態は何ですか。

「主なインターネット接続料金形態」を尋ねる設問では、「固定料金 (上限なし)」が83人(52.9%)で最も多く、次に「固定料金 (上限あり)」が54人(34.4%)、その次に「無料 (公衆Wi-Fi利用を含む)」が13人(8.3%)であり、半数以上が固定料金でインターネットを利用し、データ容量を気にせず利用できる環境が整っていることから、大容量の動画コンテンツなども活用した情報発信を検討し、市民のニーズに合わせた情報提供を行う必要があると考えられる (有効回答者数 n=157人)。



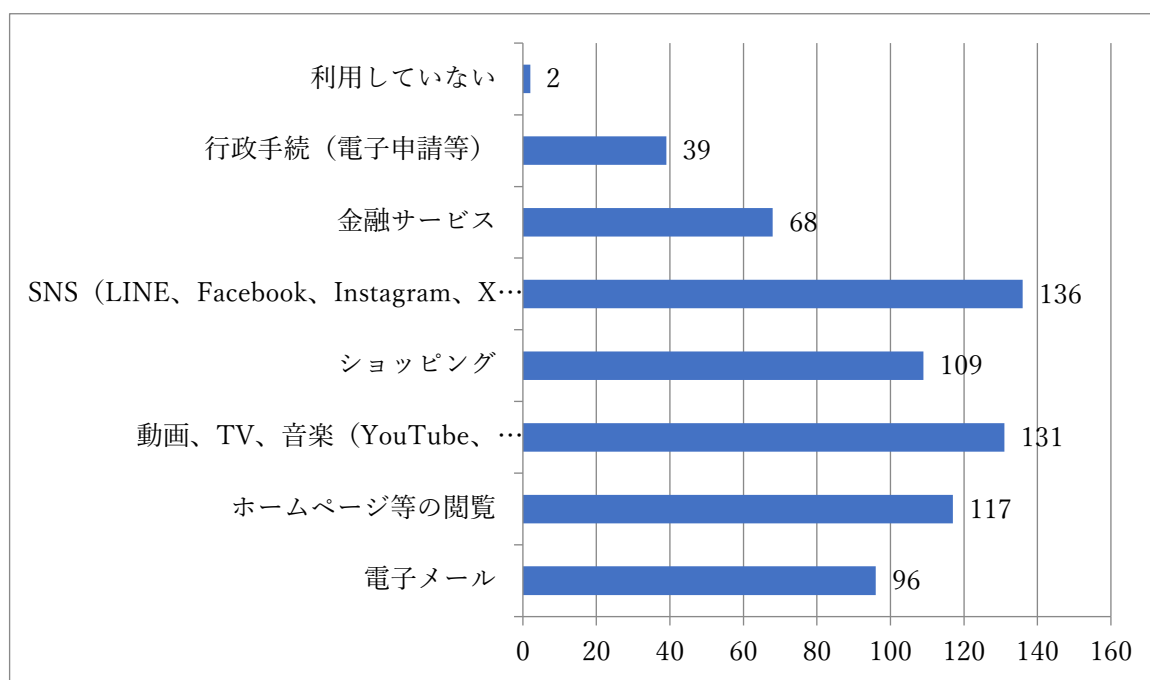
回答者数内訳(人)

区分	回答者数
固定料金 (上限なし)	83
固定料金 (上限あり)	54
従量料金	5

区分	回答者数
無料（公衆Wi-Fi利用を含む）	13
利用していない	2
計	157

Q7 スマートフォンやパソコン等で普段利用しているサービスは何ですか。（複数回答可）

「普段利用しているサービス」を尋ねる設問では、「SNS（LINE、Facebook、Instagram、X（旧 Twitter）等）」を選択した人が 136 人(86.6%)で最も多く、次に「動画、TV、音楽（YouTube、AmazonPrimeVideo 等）」を選択した人が 131 人(83.4%)、その次に「ホームページ等の閲覧」を選択した人が 117 人(74.5%)であり、SNS や動画サイトの利用率が非常に高く、これらのサービスは市民にとって日常的に利用されているツールであることから、行政情報の発信においても、これらのプラットフォームを効果的に活用する必要があると考えられる（全回答者数 n=157 人）。

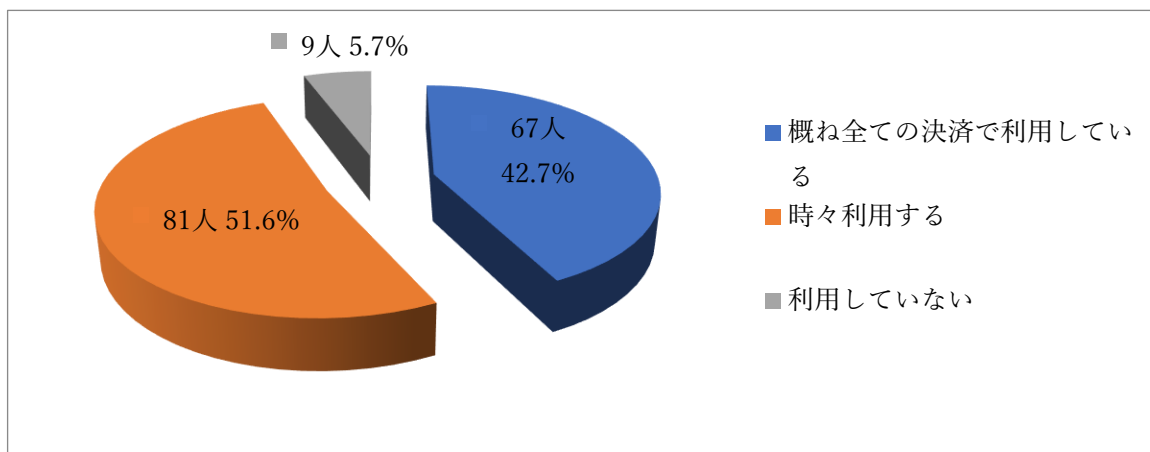


回答者数内訳(人)

区分	回答者数
電子メール	96
ホームページ等の閲覧	117
動画、TV、音楽（YouTube、AmazonPrimeVideo 等）	131
ショッピング	109
SNS（LINE、Facebook、Instagram、X（旧 Twitter）等）	136
金融サービス	68
行政手続（電子申請等）	39
利用していない	2
計	698

Q8 キャッシュレス決済を利用していますか。

「キャッシュレス決済の利用状況」を尋ねる設問では、「時々利用する」が81人(51.6%)で最も多く、次に「概ね全ての決済で利用している」が67人(42.7%)、その次に「利用していない」が9人(5.7%)であり、キャッシュレス決済の利用率が高い（キャッシュレス決済の利便性向上を実感している）ことから、行政サービスにおいても、さらにキャッシュレス決済を推進し、利便性の向上を図る必要がある（有効回答者数 n=157人）。

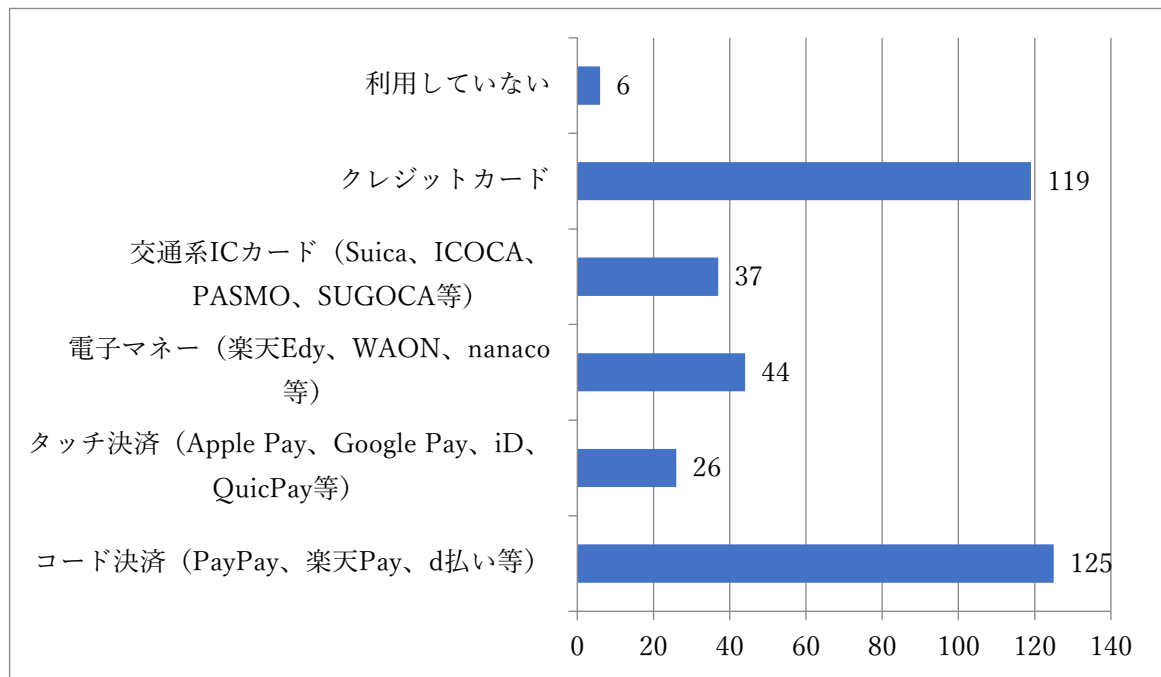


回答者数内訳(人)

区分	回答者数
概ね全ての決済で利用している	67
時々利用する	81
利用していない	9
計	157

Q9 利用しているキャッシュレス決済は何ですか。（複数回答可）

「利用しているキャッシュレス決済」を尋ねる設問では、「コード決済（PayPay、楽天Pay、d払い等）」を選択した人が125人(79.6%)で最も多く、次に「クレジットカード」を選択した人が119人(75.8%)、その次に「電子マネー（楽天Edy、WAON、nanaco等）」を選択した人が44人(28.0%)であり、行政サービスにおけるキャッシュレス決済導入においては、これらの利用状況を踏まえ、優先的に対応すべき決済方法を検討することが重要であると考えられる（全回答者数 n=157人）。

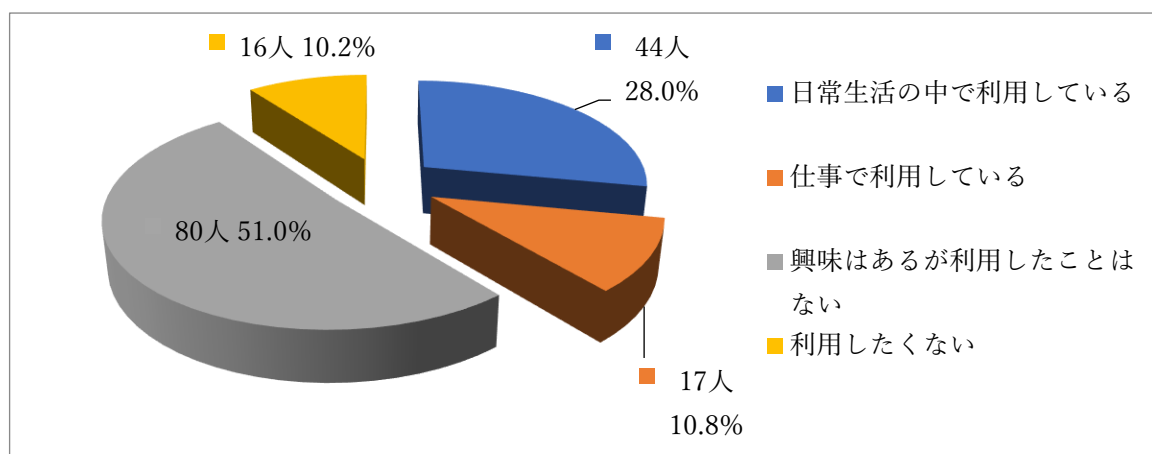


回答者数内訳(人)

区分	回答者数
コード決済 (PayPay, 楽天Pay, d払い等)	125
タッチ決済 (Apple Pay, Google Pay, iD, QuicPay等)	26
電子マネー (楽天Edy, WAON, nanaco等)	44
交通系ICカード (Suica, ICOCA, PASMO, SUGOCA等)	37
クレジットカード	119
利用していない	6
計	357

Q10 生成AIを利用していますか。

「生成AIの利用状況」を尋ねる設問では、「興味はあるが利用したことはない」が80人(51.0%)で最も多く、次に「日常生活の中で利用している」が44人(28.0%)、その次に「仕事で利用している」が17人(10.8%)であり、生成AIの利用経験者はまだ多数ではないものの、関心を持っている市民は多いことから、行政サービスへの生成AI活用を検討する際には、市民への適切な情報提供と、不安解消に向けた対策を講じる必要があると考えられる(有効回答者数 n=157人)。

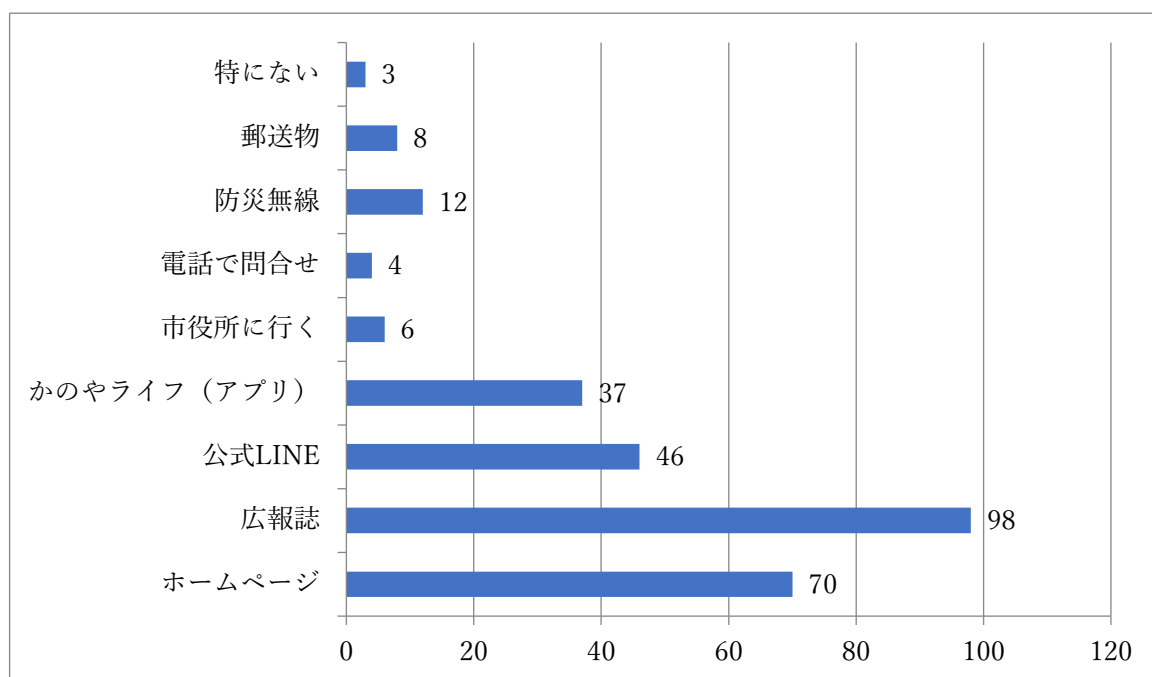


回答者数内訳(人)

区分	回答者数
日常生活の中で利用している	44
仕事で利用している	17
興味はあるが利用したことはない	80
利用したくない	16
計	157

Q11 鹿屋市からの情報を得る主な手段は何ですか。(2つまで選択)

「鹿屋市から情報を得る手段」を尋ねる設問では、「広報誌」を選択した人が98人(62.4%)で最も多く、次に「ホームページ」を選択した人が70人(44.6%)、その次に「公式LINE」を選択した人が46人(29.3%)であり、これらの情報発信手段を維持しつつ、デジタルツールを活用した情報発信を強化し、多様なニーズに対応できるよう努める必要があると考えられる(全回答者数 n=157人)。



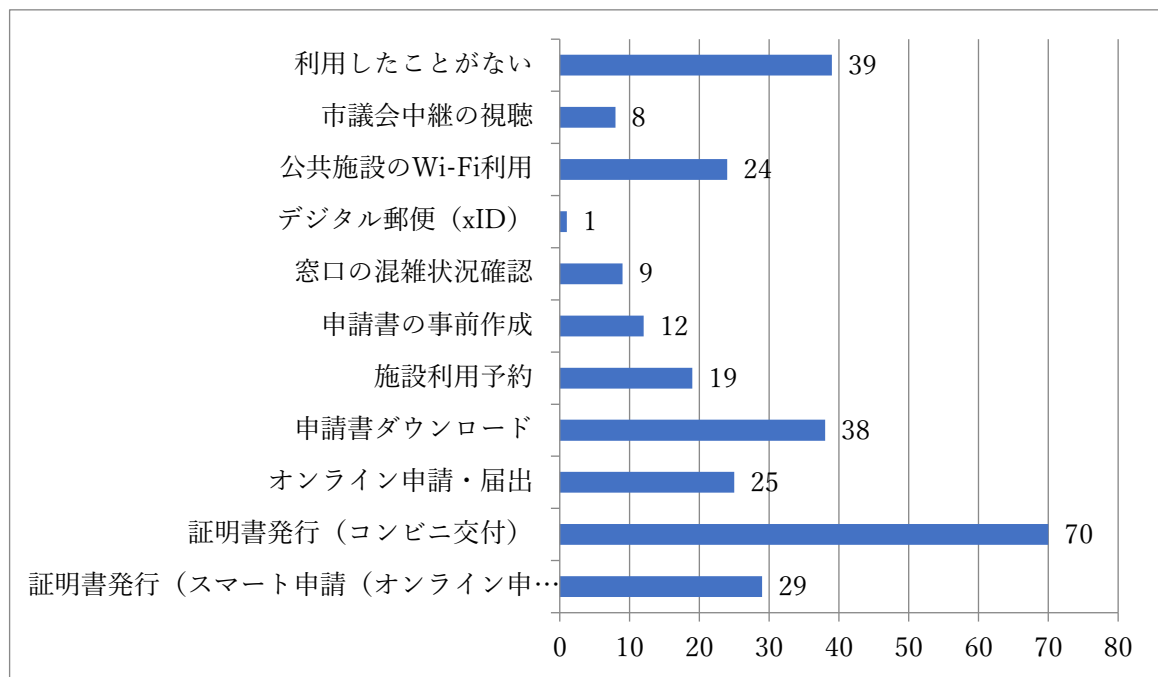
回答者数内訳(人)

区分	回答者数
ホームページ	70
広報誌	98
公式LINE	46
かのやライフ（アプリ）	37
市役所に行く	6
電話で問合せ	4
防災無線	12
郵送物	8
特にない	3
計	284

Q12 以下の行政オンラインサービスで利用したことがあるものは何ですか。

（複数回答可）

「利用したことのある行政オンラインサービス」を尋ねる設問では、「証明書発行（コンビニ交付）」を選択した人が70人(44.6%)で最も多く、次に「利用したことがない」を選択した人が39人(24.8%)、その次に「申請書ダウンロード」を選択した人が38人(24.2%)であり、オンラインサービスの認知度は向上していると考えられるものの、利用したことがない市民も一定数いるため、更なる周知徹底が必要である（全回答者数 n=157人）。



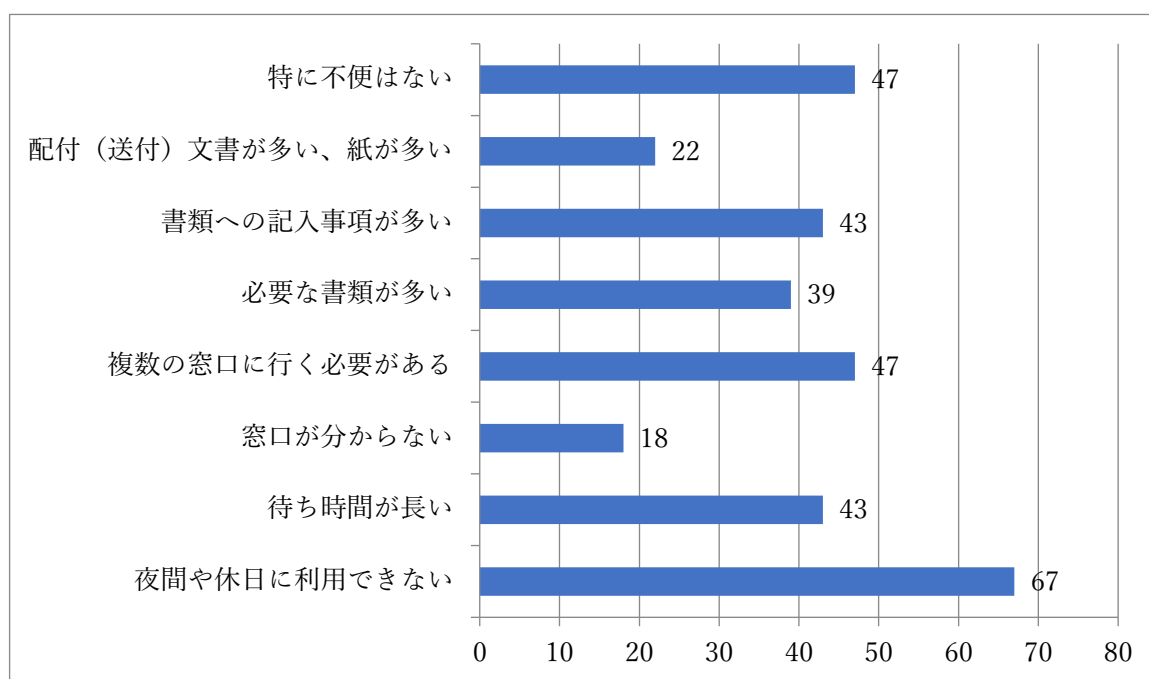
回答者数内訳(人)

区分	回答者数
証明書発行（スマート申請（オンライン申請⇒郵送））	29
証明書発行（コンビニ交付）	70
オンライン申請・届出	25
申請書ダウンロード	38
施設利用予約	19
申請書の事前作成	12
窓口の混雑状況確認	9
デジタル郵便（xID）	1
公共施設のWi-Fi利用	24
市議会中継の視聴	8
利用したことがない	39

区分	回答者数
計	274

Q13 市への手続き等で不便だと思うことは何ですか。（複数回答可）

「市手続等で不便に思うこと」を尋ねる設問では、「夜間や休日に利用できない」を選択した人が67人(42.7%)で最も多く、次に「特に不便はない」と「複数の窓口に行く必要がある」を選択した人が47人(29.9%)、その次に「書類への記入事項が多い」を選択した人が43人(27.4%)であり、さらなるオンラインサービスの拡充により、これらの課題を解消し、市民の利便性向上を図る必要があると考えられる（全回答者数 n=157人）。



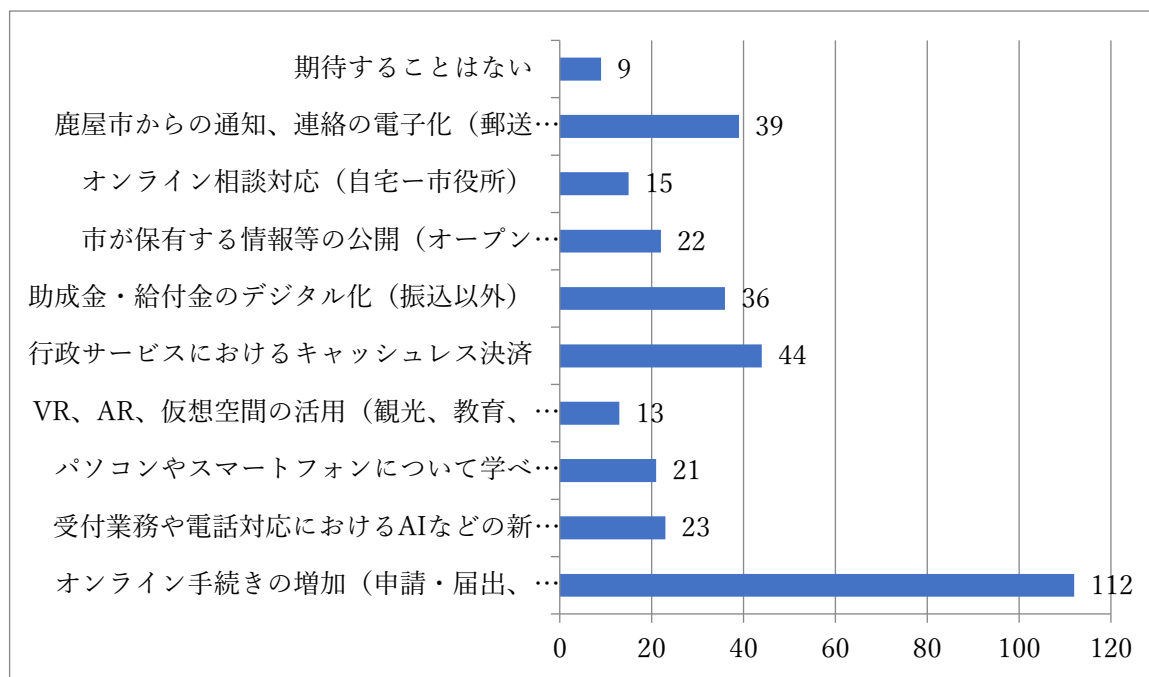
回答者数内訳(人)

区分	回答者数
夜間や休日に利用できない	67
待ち時間が長い	43
窓口が分からない	18
複数の窓口に行く必要がある	47
必要な書類が多い	39
書類への記入事項が多い	43
配付（送付）文書が多い、紙が多い	22
特に不便はない	47
計	326

Q14 今後、どのような行政サービスの拡充や新規導入を期待しますか。（3つまで選択）

「期待する行政サービスの拡充等」を尋ねる設問では、「オンライン手続きの増加（申請・届出、公共施設予約等）」を選択した人が112人(71.3%)で最も多く、次に「行政サービスにおけるキャッシュレス決済」を選択した人が44人(28.0%)、その次に「鹿屋市からの通

知、連絡の電子化（郵送物のデジタル化）」を選択した人が 39 人(24.8%)であり、より一層の行政サービスのデジタル化を推進し、市民の期待に応える必要がある（全回答者数 n=157 人）。

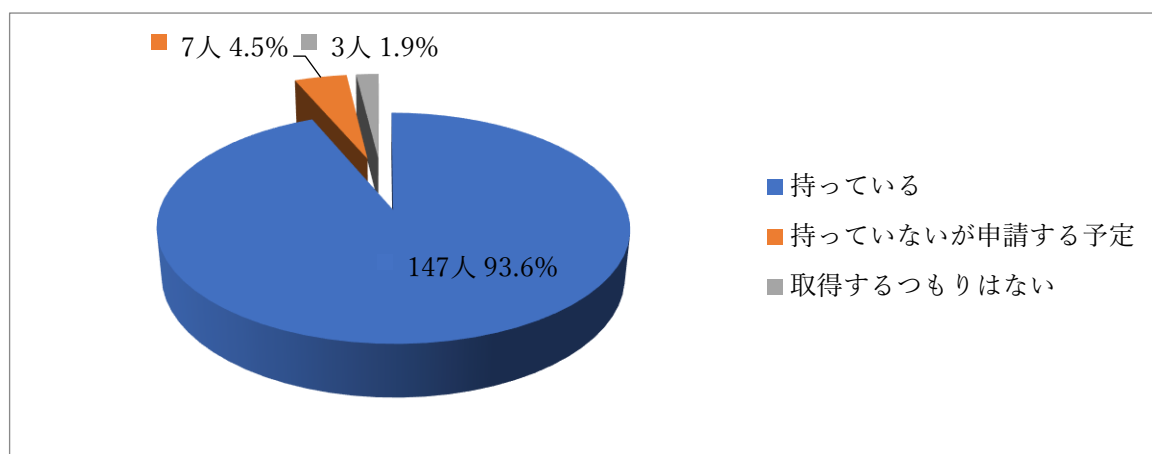


回答者数内訳(人)

区分	回答者数
オンライン手続きの増加（申請・届出、公共施設予約等）	112
受付業務や電話対応におけるAIなどの新たな技術の活用	23
パソコンやスマートフォンについて学べる講座の拡充	21
VR、AR、仮想空間の活用（観光、教育、市民交流等）	13
行政サービスにおけるキャッシュレス決済	44
助成金・給付金のデジタル化（振込以外）	36
市が保有する情報等の公開（オープンデータ）	22
オンライン相談対応（自宅ー市役所）	15
鹿屋市からの通知、連絡の電子化（郵送物のデジタル化）	39
期待することはない	9
計	334

Q15 マイナンバーカードを持っていますか。

「マイナンバーカード保有状況」を尋ねる設問では、「持っている」が 147 人(93.6%)で最も多く、次に「持っていないが申請する予定」が 7 人(4.5%)、その次に「取得するつもりはない」が 3 人(1.9%)であり、マイナンバーカードの保有率が高く、デジタル化推進の基盤が整いつつあることから、さらにマイナンバーカードを活用したサービス拡充を図る必要がある（有効回答者数 n=157 人）。



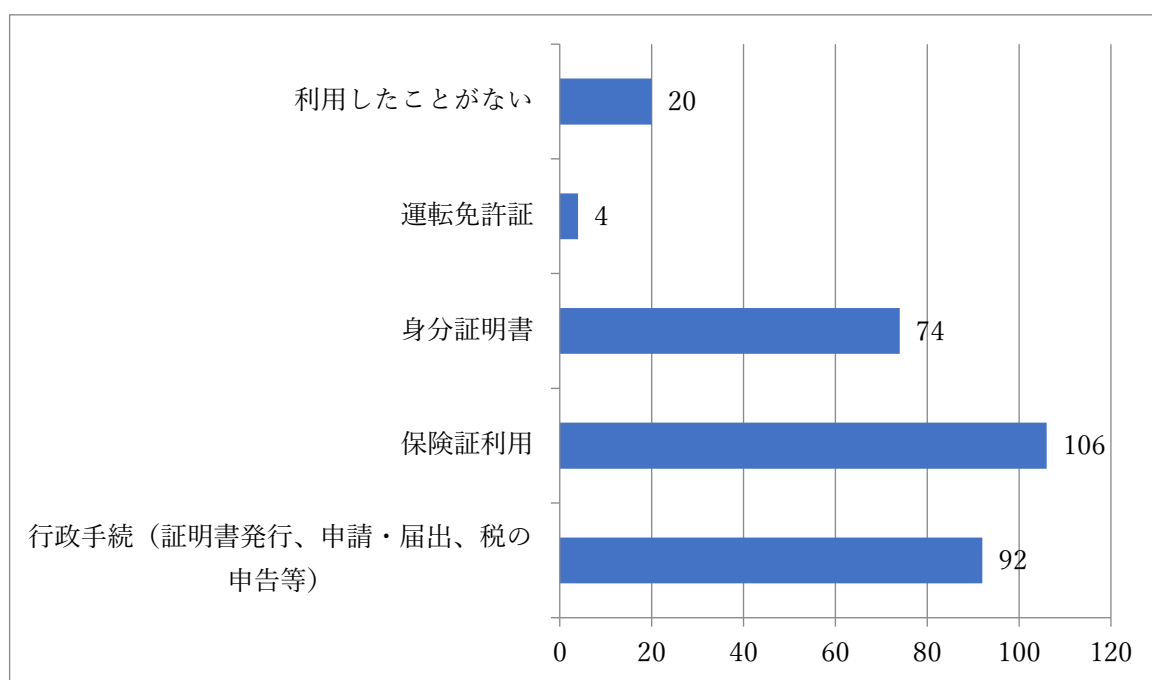
回答者数内訳(人)

区分	回答者数
持っている	147
持っていないが申請する予定	7
取得するつもりはない	3
計	157

Q16 マイナンバーカードを使って利用したことがあるサービスは何ですか。

(複数回答可)

「マイナンバーカードを使って利用したサービス」を尋ねる設問では、「保険証利用」を選択した人が106人(67.5%)で最も多く、次に「行政手続(証明書発行、申請・届出、税の申告等)」を選択した人が92人(58.6%)、その次に「身分証明書」を選択した人が74人(47.1%)であり、マイナンバーカードの利活用促進のため、更なるサービス拡充と周知が必要である(全回答者数 n=157人)。

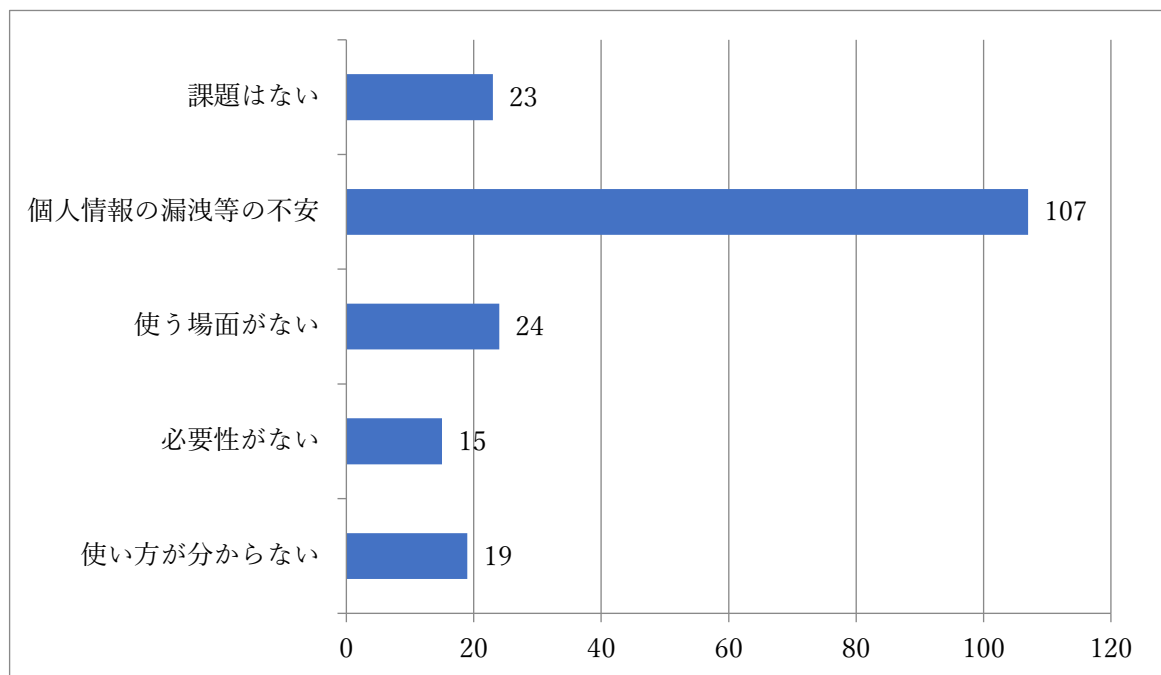


回答者数内訳(人)

区分	回答者数
行政手続（証明書発行、申請・届出、税の申告等）	92
保険証利用	106
身分証明書	74
運転免許証	4
利用したことがない	20
計	296

Q17 マイナンバーカードの利活用における課題は何だと思いますか。（複数回答可）

「マイナンバーカード利活用における課題」を尋ねる設問では、「個人情報の漏洩等の不安」を選択した人が107人(68.2%)で最も多く、次に「使う場面がない」を選択した人が24人(15.3%)、その次に「課題はない」を選択した人が23人(14.6%)であり、セキュリティ対策の強化や、市民への丁寧な情報提供を通じて、不安解消に努める必要がある（全回答者数 n=157人）。

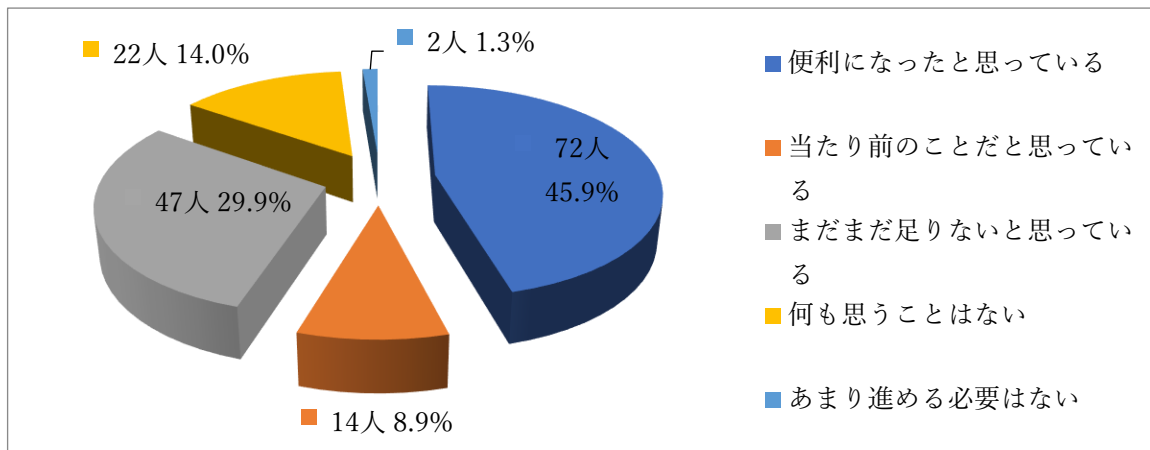


回答者数内訳(人)

区分	回答者数
使い方が分からない	19
必要性がない	15
使う場面がない	24
個人情報の漏洩等の不安	107
課題はない	23
計	188

Q18 鹿屋市の行政手続等のデジタル化・オンライン化についてどう思いますか。

「行政手続等のデジタル化・オンライン化について」を尋ねる設問では、「便利になったと思っている」が72人(45.9%)で最も多く、次に「まだまだ足りないと思っている」が47人(29.9%)、その次に「何も思うことはない」が22人(14.0%)であり、デジタル化による利便性向上を実感している市民が多い一方、デジタル化は当然であるという声や更なる改善を求める声もあることから、現状に満足せず、継続的な改善が必要である（有効回答者数 n=157人）。

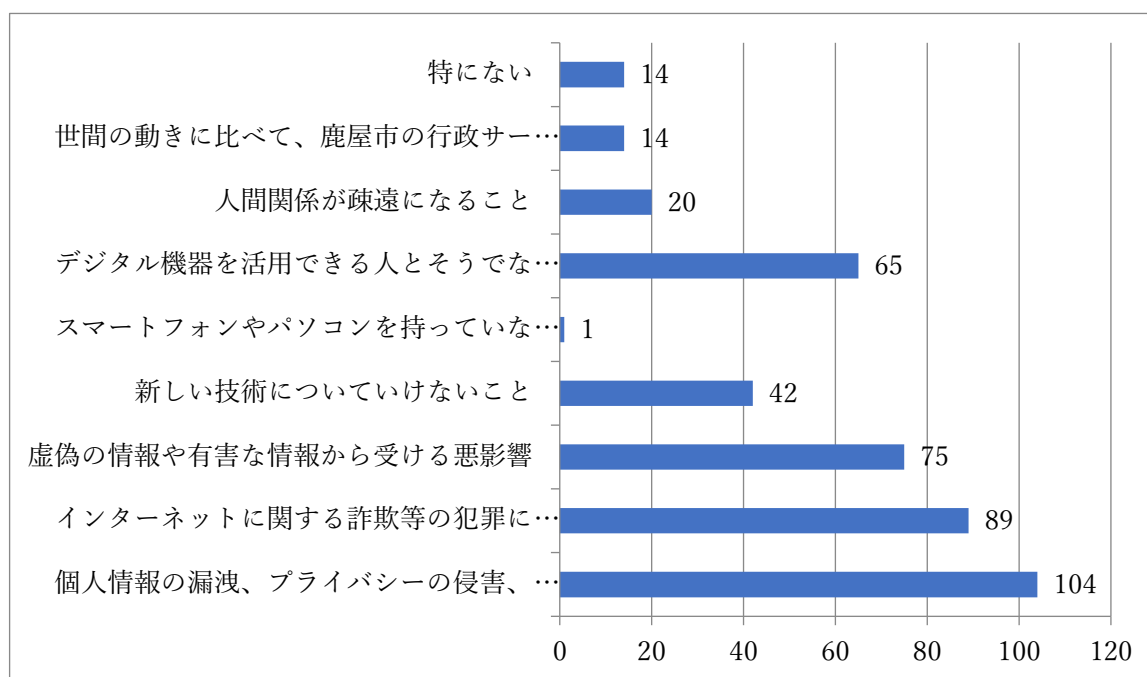


回答者数内訳(人)

区分	回答者数
便利になったと思っている	72
あたり前のことだと思っている	14
まだまだ足りないと思っている	47
何も思うことはない	22
あまり進める必要はない	2
計	157

Q19 社会のデジタル化が進む中で、不安に感じることはありませんか。（複数回答可）

「デジタル化が進む中で不安に感じる事」を尋ねる設問では、「個人情報の漏洩、プライバシーの侵害、誹謗中傷」を選択した人が104人(66.2%)で最も多く、次に「インターネットに関する詐欺等の犯罪に巻き込まれること」を選択した人が89人(56.7%)、その次に「虚偽の情報や有害な情報から受ける悪影響」を選択した人が75人(47.8%)であり、セキュリティ対策の強化や、情報リテラシー向上のための啓発活動を通じて、市民の不安軽減に努める必要があると考えられる（全回答者数 n=157人）。



回答者数内訳(人)

区分	回答者数
個人情報情報の漏洩、プライバシーの侵害、誹謗中傷	104
インターネットに関する詐欺等の犯罪に巻き込まれること	89
虚偽の情報や有害な情報から受ける悪影響	75
新しい技術についていけないこと	42
スマートフォンやパソコンを持っていないこと (経済的負担を含む)	1
デジタル機器を活用できる人とそうでない人の格差	65
人間関係が疎遠になること	20
世間の動きに比べて、鹿屋市の行政サービスのデジタル化が遅いこと (デジタル化が進まないため、不便を感じている)	14
特にない	14
計	424

Q20 その他、ご意見・ご要望等がございましたら入力ください。

(要約) マイナンバーカードの利用方法や窓口対応に関する情報提供の改善、デジタル化の進展に対する不安解消への要望、行政サービスのデジタル化促進、高齢者への配慮、オンライン手続きの拡大、キャッシュレス決済の導入、情報公開の充実、広報誌以外の情報発信手段の多様化、行政のデジタル化と市民ニーズの乖離への懸念、個人情報保護の徹底などが挙げられている。

より分かりやすく使いやすいシステム構築、市民の意見を反映したサービス提供、デジタルバインドへの対策などが求められている。

記述内容
「Q17. マイナンバーカードの利活用における課題は何だと思いますか。」について マイナンバーカードは、暗証番号か顔認証のどちらかを選択して利用しなければならないと思いますが、今春、串良支所で「暗証番号と顔認証の両方を登録・利用することができる」との説明を受けました。その後、市役所での確認はしていませんが、ネット検索で見える限り、どちらか片方ようです。マイナンバーカードについては、分かりにくいことが多いので、正しい情報を提供していただきますようお願いいたします。
18 は、答えが無かったので、仕方なく反対意見を選びましたが、やり方が分からない。が、切実な回答です。年寄りには困難。 この、ステックを利用するにも、一時間無限ループを繰り返しました。 手続きを進めたくても、英文メール。嫌がらせかと思いました。 済みません。自分の無能が原因ですね。
DX 化で申請すると郵送になって町内会に入っていないから広報誌は配りません。取りに来て下さいは???に思います デジタル化について行けない人も町内会に入りたくない人もイレギュラーだから窓口へ来て更に嫌な思いをしてくださいますか? 嫌な思いをしたところへ無理をしてまで窓口行ったり、町内会に入ったりしたいとは思っていません 広報誌も来なくなって長くなり、どうすればいいのか、どういうサービスをしているのか、スマホの小さな画面ではわかりにくく HP では派手な物が多く、流行の構成なのでしょうか? 肝心な物が探しにくく感じました。これが、鹿屋市の目指すデジタル化なののでしょうか? デジタルに明るく無い人を置いて、更に格差を広げてよその自治体に自慢出来る物ができれば良い? DX 化反対とは言っていない デジタルに明るく無い人へのデジタルサービスとは何なのでしょう?
IT 化が進む世の中ですが、特に年配者にとってはスマートフォンなどの使い方がわからず、手続きのほとんどを窓口で行う方が多くいらっしゃいます 窓口業務軽減のためにスマートフォンの使い方教室の開催を検討していただければと思います
LINE アプリ等があるので、折角なら市民からもっと意見としてアンケート等を取ってほしい。(公共施設:リナシティやイオンが入る時の店舗要望等。叶う叶わないは別として市民の傾向等知る為にも)
アンケートについて電子メールだと助かります。
オンライン・デジタル化により、大切な情報が流れてしまう(気に留めなくなる)ことは心配。重要な情報をどう伝えていくかは、発信側も工夫が必要だと思う。
くるりんバスの利用が少ないように思いつく廃止になるのではと危惧しております。ルートと時間が利用者のニーズに合っていないのではと思います。ネットを活用して事前予約など利用が増える仕掛けが出来ないものかと思っています。
ここで書くことではないかもしれないが、電子図書館をもっと利用しやすいようにしてほしい。
コンビニで「個人番号」を記載した住民票を取ることができないので、わざわざ市役所まで行かなければならないのが不便です。
コンビニ交付の手数料を窓口交付より安くしたり、オンライン予約の場合は使用料を安くするなど、安いから使ってみよう→意外と簡単で便利!という成功体験から定着を図るような施策に取り組んでみてはいかがでしょうか。
デジタル化、オンライン化が進み便利で速いとは思いますが中々知識や技能がついていけなくて不安です。
デジタル化されたサービスを頻繁に利用すれば便利さを感じるかもしれないが、年に数度、数年に1度の単位になると直接窓口に行ったほうが確実性があると判断してしまう。情報を悪用されても頻繁に利用する人は即座に気付けるが、あまり利用しない人は自分の情報が悪用されてる事に気付きにくい部分もある。デジタル化が進みにくいのは

記述内容
あまりメリットを感じないからだと思うのだが、メリットを感じるようなアイデア(具体例が思いつきませんが)必要かと思います。。。
デジタル化は、かなり進んでいると思いますが、個人が使いこなしているかと言えば…まだまだなので使いこなす事が出来るような講座等があれば嬉しいです。
デジタル化はおおいに進めるべきと思う。
マイナンバーカードが、更新に際して、間が開かない様にしてもらえた。
マイナンバーカードの質問で回答使い方がわからないとしましたが正しくは、都度マイナンバーカードの読み取りが必要になったため、面倒が正しい回答です。スマートフォンを使って利便性を上げて欲しい。
マイナンバーカード申請予定ではあるが余りにも「付録」付帯予定が有りすぎて逆に世界から外れて行っているように感じるのは私だけでしょうか??
モニターアンケートについての QR コードも紙で送られてくるので、メールや LINE などで送ってくればお互い楽だし資源の無駄なのに…とも思っています。高齢者が多いようなので、ICT 化が進むにあたり時代から取り残されていくと感じてしまわないように対応していくのも大切だと思いますが、もっともっと進めて欲しいです。市の管轄かわからないのですが、テニスコートなどの予約も電話などでしないといけないので不便です。電話はほぼ LINE ですので、LINE 以外で電話するとお金もかかるのが嫌です。
活用できる人、そうではない人に分けて考えていく必要があると思います。
休日、土曜日が日曜日に開庁してほしい。
串良支所が近いのでよく利用するが、本所までいかないといけないものなどはデジタル化して欲しい。もしくは支所でも対応できるようにして欲しい。子育てに関するものは特に手間が多い為、簡潔にして欲しい。小さい子どもを連れて役所の手続きに何回も行ったり、助産師訪問など受けないと助成金もらえないなど、母親や子どものことを考えていない。そもそもデジタル化など何のためにするのかといったら手間を無くすためだと思うが、誰の為に考えた時に、対象者が不明。デジタルに対応できるのは若い世代。若い世代の意見を聞いてから取り組むべき。また、年配の人たちもやりやすいような環境にすべきだし、とりあえずデジタル化は、市民にとって不便だと思う。
広報かのや等のデジタル配信が将来、成人市民全員に配信されるようになって欲しい。
市民に見える場所だけでなく、庁内業務や対企業での業務全て押印レスかつオンライン申請・受理を進めて、基本的には全ての業務をペーパーレスで行えるように整備を進めるべきだと思います。あくまで、役所側でなく利用者側が紙を選んでいるという状況でないとい鹿屋市のデジタル化は進まないと思います。 東京の多くの都下行政においても、予算がないので周辺の行政が運用整理するまでなかなか踏み出さないという状況でした。工夫すれば予算がなくてもデジタル化は進められる部分は多くあるので、まずは下地作りを行ってください。
私は50代ですが、やはりまだと上の方への対応とか。私だってこれからの技術についていけないかもしれない。その辺ですかね?
鹿屋市からの情報は広報紙や FM かのやから得る事が多いです。 デジタルで受けてもよく分からないままスルーしているような。
鹿屋市のデジタル化はそれぞれの申請ごとにデジタルツールが異なっており、一体感がなく使いにくい。シンプルに一体感のある作りにできたらもっと使いやすくなると思う。
社会のデジタル化は、事務の効率化で必要な事であるが、人と人が顔を突き合わせて行う血の通う意思疎通の効果も目に見えないが、大切なものである。効率化で浮いた時間を充てて欲しい。その使い分けを分野別に意識的に行うことが必要である。
手続き等は便利になりありがたい。イベント情報などはチラシもあった方がいい。SNSなどで拝見しても忘れやすい。
償却資産の申告をネットで出来る様に。
特に独り暮らしの高齢者が取り残されていくように感じる毎日です。
便利になりすぎて、高齢者はどんどん置いてきぼりになります。優しく誰にでも使える

記述内容
機能にしてほしいです。
保育園の申請でも書類が多く簡素化してほしい。携帯で入力できるようにして頂けたら簡単かなと思う。
民間は信じられないくらい遅れている所が多い。行政が率先して、デジタル化を進めていき民間と連携出来るようにして欲しい。必要とあらば、補助金等出して民間のデジタル化も推進して欲しい。イメージだけで、デジタル化を恐れていつまでも古臭い時間の無駄な事をしている企業がいっぱいあり、そういう所を見直すことで人手不足も少しは解消できるし利益率も上げることが出来る
例えば、家族が亡くなった場合どんな書類を用意して、どことどこへ持っていくそれも予約ができて、できれば窓口一つで完了する さらに言えばそれらをスマホや PC から手続きできるといいな つまりどんな用事にしてもたらい回しにされないようにしてほしい

※ 各設問の分析コメントは、生成 AI（Gaixer（Gemini1.5Pro））が作成したものをベースに記述している。